



言葉の玉手箱

キーワード解説

IR（アイアール） Integrated Resort（統合型リゾート）の略称。国際会議場や展示施設、ショッピングモール、美術館、劇場・映画館などのレクリエーション施設、国内旅行の提案施設とカジノ（賭博場）が一体となった「複合観光集客施設」をいう。カジノ誘致に公共性をもたせる誘客施設群と「カジノ解禁法」で位置づけられている。

MICE（マイス） Meeting（会議）、Incentive tour（販売促進策としての旅行）、Convention（国際会議や学会）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった略語。商用旅行なので多数の参加者とより多い消費額を見込めることから、訪日外国人観光客の誘客装置として誘致活動に取り組む自治体も少なくない。

カジノ解禁法 「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」（2016年12月成立）は、刑法185条以下で処罰の対象とされている賭博に該当するカジノについて、一定の条件のもとに設置を認めるために必要な措置を講じることが、政府に義務付けた。カジノ設置で経済活性化を訴えて成立したが、経済的なマイナス要因はほとんどかえりみられなかった。

カジノ実施法 「特定複合観光施設区域整備法」（2018年7月成立）は、「特定複合観光施設」を「カジノ施設のほかに、①国際会議場施設、②展示施設等、③我が国の伝統、文化、芸術等を生かした公演等による観光の魅力増進施設、④送客機能施設、⑤宿泊施設から構成される一群の施設、⑥その他（観光客の来訪・滞在の促進に寄与する施設を含む）であって、民間事業者により一体として設置・運営されるもの」と定

義し、カジノ施設面積の上限を施設総面積の3%と定めた。

公営ギャンブル 賭博は刑法で禁じられた犯罪である。法務省は、地方自治体などが行う「公営ギャンブル」（競輪・競馬・競艇・オートレース）だけを特別立法で合法と認めてきた。その当時は、自治体財政があまりにも脆弱であったから、貴重な収入源とみなされたからである。

パチンコ 大正年間に複数の日本人がアメリカから導入したゲームが起源。終戦直後から、景品と交換できるゲームとして風俗営業法のもとで発展してきた。賭博禁止の刑法を掻い潜り、出玉を換金するための三店方式（パチンコ店、景品交換所、景品問屋で構成される）の定着後は、ギャンブルの筆頭格となっている。

ギャンブル依存症 病名は「病的賭博」。社会的・経済的困難をもたらしているのに、ギャンブルしか考えられない状態をいう。ギャンブル依存者はドーパミンとノルアドレナリンの量が増加し、セロトニン系の機能が低下した状態にある。

経済効果の測定 ある産業で発生した1単位の需要が、産業連関を通じて、どれだけの追加需要を生み出したのかは、産業連関表から計算できる。この計算結果が「経済効果」である。公共投資や建設投資など直接的な効果額だけでなく、「仕事が増えて、賃金が増えた」といった2次的な効果額も算入されるが、依存症の罹患による「損失額」など、マイナスの経済効果は算入されない。

（さくらだ・てるお：阪南大学、会計学）